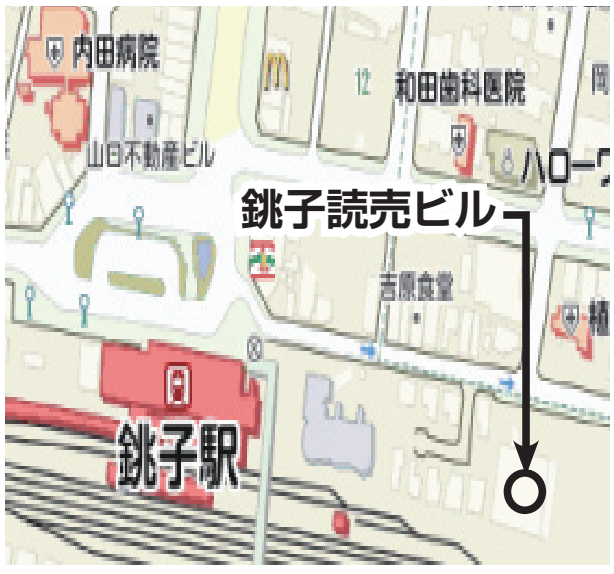
ＪＲダイ改―特急列車 廃止・削減 絶対反対！

ＪＲダイ改―特急列車
廃止・削減　絶対反対

銚子地域集会（仮称）

２月２６日（木）１５時～　銚子読売ビル２Ｆ
＊１４時から銚子駅前で街宣行動を行います。



12月19日、ＪＲ千葉支社は３月ダイヤ改正計画を発表しました。ＪＲは特急列車を全面的に廃止・削減しようとしています。

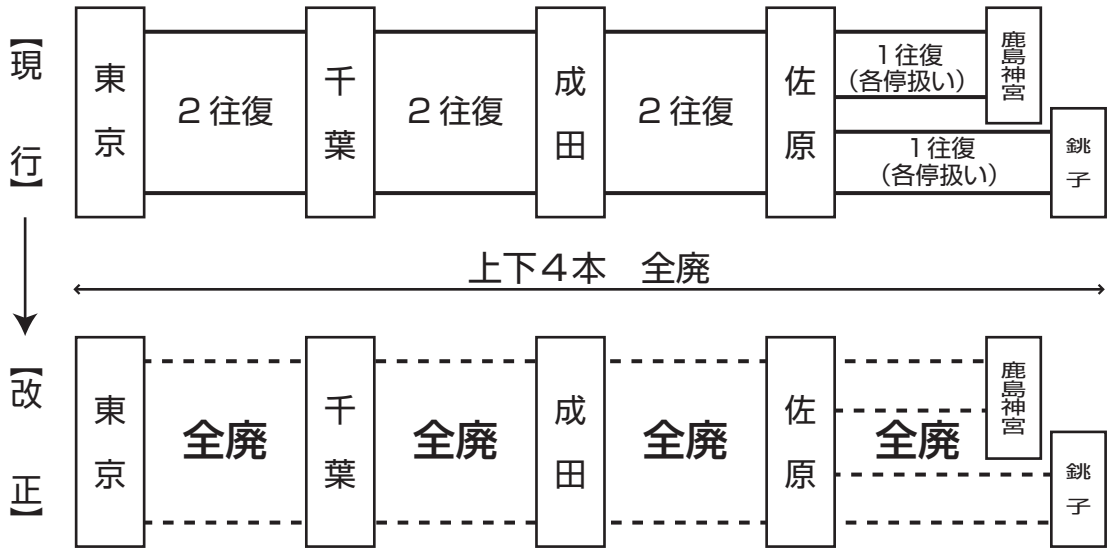
私たちは、地方を切り捨てる特急列車の廃止・削減に絶対反対です。

計画内容は次の通りです。

◎特急「さざなみ」
東京～君津間　上下４本　廃止
君津～館山間　上下８本　全廃

◎特急「あやめ」
全区間　上下４本　全廃

「あやめ」（東京～佐原）上下４本全廃



◎特急「しおさい」
東京～銚子間　上下２本　廃止
（成東～銚子間　ローカル扱い）
新宿～佐倉間　上り１本　廃止

◎特急「わかしお」
東京～勝浦間　上下２本　廃止
勝浦～安房鴨川間　上下８本　廃止
（うち６本はローカル扱い）

ローカル線の全面廃止

この特急列車の廃止・削減は、それだけで終わりません。ＪＲはローカル線の全面廃止に乗り出したのです。それは、地方切り捨てることそのものです。絶対に許せません。

鉄道は、通勤・通学をはじめ人びとの生活を支える重要な社会的インフラの一つです。それを「利用状況にあわせる」と削減すれば、通勤・通学など地方での生活はますます不便になります。利用者だけでなく、地域の人口まで減少させることになります。

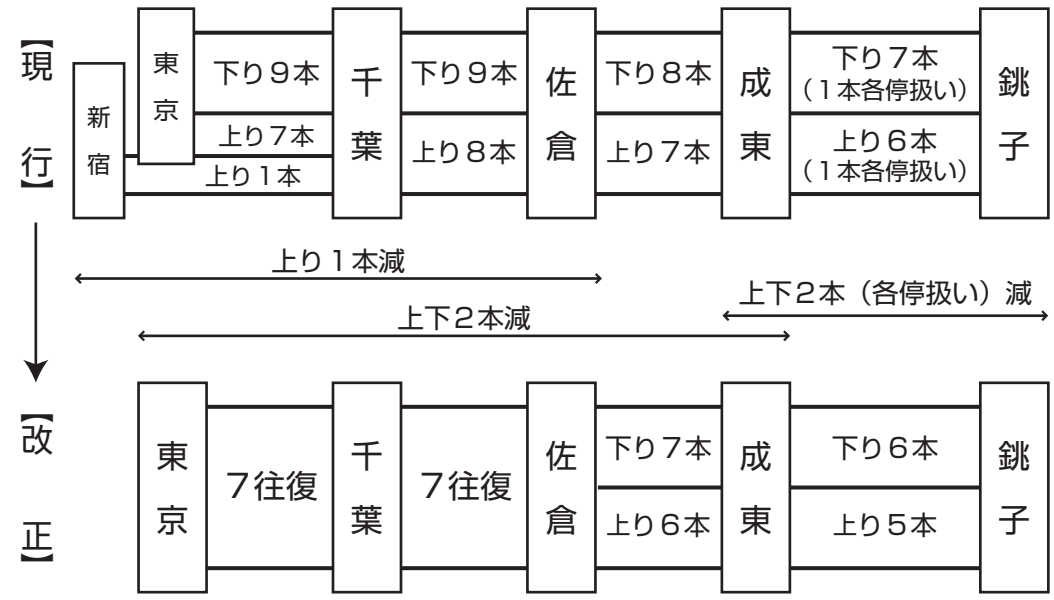
それはさらなる列車削減につながり、ローカル線の完全な切り捨てにまで行き着きます。

国鉄千葉動力車労働組合

千葉県千葉市中央区要町 2-8　ＤＣ会館内
TEL：043-222-7207　FAX：043-224-7197
Mail：doro-chiba@doro-chiba.org

「しおさい」（東京～銚子）

東京～銚子間　上下２本　廃止
新宿～佐倉間　上り１本　廃止



儲けのために生活犠牲に

これは、「東京から70～80㎞以遠の運行は切り離す」という構想が本格的に動き出したということです。ＪＲは人びとの生活より儲けを優先し、ローカル線を切り捨てようとしているのです。

鉄道は人びとの生活を支える社会的インフラの一つです。それを儲けのために切り捨てるなど、絶対に許されることではありません。

地方切り捨てそのもの

それは単に列車だけの問題ではありません。地方での生活を破壊する、「最後の一撃」のような意味があります。

地域の人口が減れば、学校や病院の統廃合がさらに進むことになります。地域で運営している水道料金は、到底払えないほど高額になります。

学校・病院・保健所・水道など、地方の社会的インフラはもう限界ギリギリです。ローカル線切り捨ては人が生活する上で必要不可欠なインフラ全体を破壊していきます。ＪＲは「儲からない」路線と共に地域を丸ごと切り捨てようとしているのです。

地域あげて反対の声を

現在、全国の地方自治体の半分、896都市が消滅するといわれています。千葉では銚子市が17年、富津市が18年度までに破綻することは確実といわれています。それにもかかわらず、ＪＲは「地方創生」どころかローカル線の全面廃止に動きだしたのです。

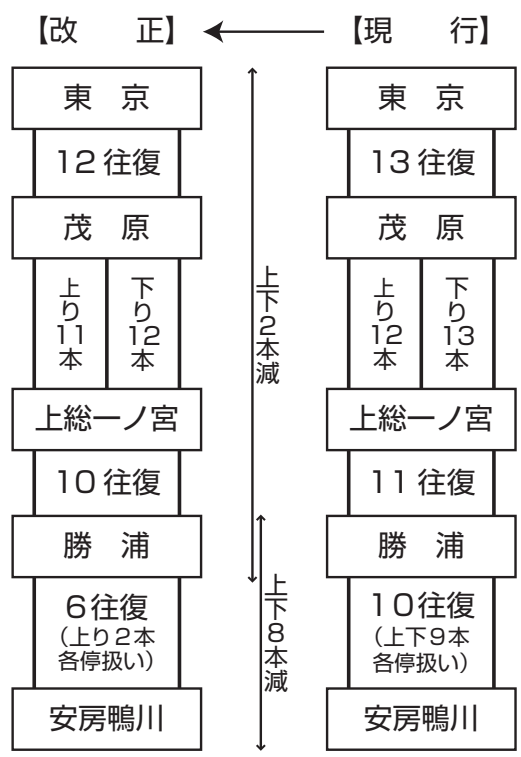
この中で、ダイ改計画発表の後、瞬く間に沿線自治体から次々と反対の声や決議があがっています。

12月24日、館山市、同商工会議所、同観光協会の３者が、特急列車の復活を求める要望書をＪＲ千葉支社に提出しました。翌日、館山市議会で「廃止の見直しを求める意見書」が全会一致で決議されました。銚子市、香取市、成田市、神崎町、東庄町、旭市、匝瑳市、鹿嶋市、潮来市など沿線自治体からも反対の声があがっています。ＪＲに対する地域の総反乱と呼ぶべき事態です。

特急列車廃止・削減、ローカル線切り捨ては絶対に認められません。地域をあげて共に反対の声を上げローカル線・地方切り捨てを阻止しましょう。

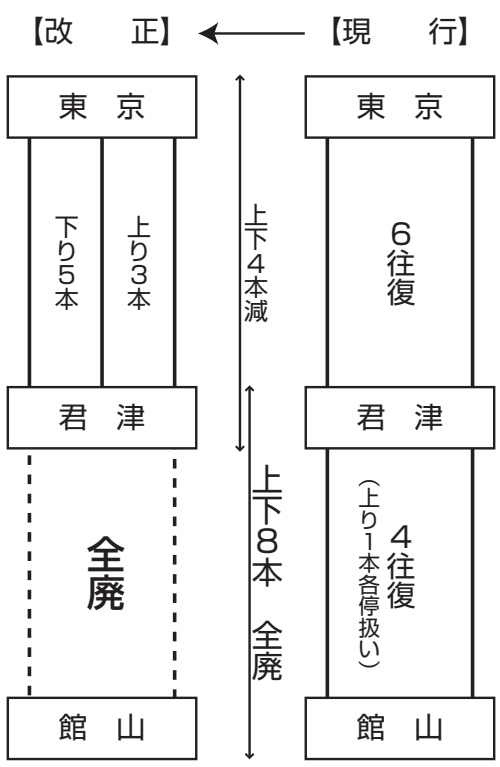
「わかしお」

東京～勝浦間 上下２本廃止
勝浦～安房鴨川間 上下８本廃止



「さざなみ」

君津―館山間　全廃



石川支社長（右）に要望書を手渡す金丸市長ら

館山

特急「さざなみ」の復活を

君津以南の廃止発表受け　市など３者がＪＲに要望

来春のＪＲダイヤ改正で、特急「さざなみ」の廃止が発表されたのを受け、館山市、商工会議所、市観光協会の３者のトップが24日、新設された特別快速の増発、特急の復活を求める要望書を、ＪＲ千葉支社に提出した。

突然の廃止決定に、地元の関係団体が一致団結、19日の発表に対し、素早い要望活動で復活を求める地元側の姿勢を強くアピールした。

ダイヤ改正（3月14日付）では、平日のさざなみは君津駅とまりとなり、君津以南は廃止。東京・館山間の特別快速を1往復新設するが、運行時間帯は東京からの乗降

要望書では、ダイ正で内房線の利便性きく低下すると指摘速バス利用者が増えるが、鉄道は大量定時性の確保などにおり、欠くことのない交通手段と強調

そのうえで▽館山用者が通勤、通学ことができる時間帯

館山市議会存続求め意見

館山市議会は、25本会議で、特急ささの存続を求める趣旨